

平成26年4月22日
内閣府公共サービス改革推進室

口号国営公園運営維持管理業務に係る評価総括表

	武蔵丘陵森林公園	昭和記念公園	飛鳥歴史公園	吉野ヶ里歴史公園	沖縄記念公園
契約期間	平成24年4月～平成27年3月（3年間）	同左	同左	同左	同左
入札参加者数	4者	3者	1者	2者	2者
受託事業者	○共同事業体 代表：西武造園(株) 構成：(株)プリンスホテル	○共同事業体 代表：西武造園(株) 構成：(株)プリンスホテル	○共同事業体 代表：(一財)公園財団 構成：(財)明日香村地域振興公社、(公財)古都飛鳥保存財団	○共同企業体 代表：(一財)公園財団 構成：JR九州コンサルタンツ(株)、(株)葉隠緑化建設	(一財)沖縄美ら島財団
実施状況に関する評価	達成目標として設定された質については、平成24年度及び平成25年度の2か年間で総括して見ると、概ね確保。目標をやや下回っている項目があるものの、受託事業者が要因を分析し、すばい対応策を実施。	達成目標として設定された質については、平成24年度及び平成25年度の2か年間で総括して見ると、概ね確保。四半期ごとに見た場合、事業初年度の平成24年度は目標を下回っているものがあるものの、受託事業者が要因を分析し、対応策を実施したことにより、平成25年度は改善。	達成目標として設定された質については、一部に目標を下回るものがあったが、公園利用者数については、設定した目標値（平成20年度～22年度の実績平均値）において、22年度の平城遷都1300年記念事業という特殊要因が含まれていたことも影響。受託事業者は目標の達成に向けて、ラジオ局のウォーキング大会の誘致等追加イベントの開催をはじめさまざまな努力を行い、24年度は23年度を上回る実績、更に25年度は改善。	達成目標として設定された質については、平成24年度及び平成25年度の2か年間とも、年間目標は概ね確保。事業開始2年目となる平成25年度は、ほとんどの項目で前年度を上回る質の確保をする見込み。	達成目標として設定された質については、平成24年度及び平成25年度の2か年間とも、概ね確保。事業開始2年目となる平成25年度は、ほとんどの項目で前年度を上回る質の確保をする見込み。
民間事業者の創意工夫	「スターライトクリスマス」等のイベントを導入	冬期における新規イベント「雪と花の早春フェスティバル」等のイベントを導入	飛鳥ならではの歴史イベント・プログラム等を実施	体験プログラムポイント制度の導入、園内バスのお客様へのガイド提供などを導入	季節毎の集客戦略、地域特性を生かした植物管理及び沖縄ならではの食の提供などを導入
経費の削減（1年間）	225,990千円（35.7%、従来経費633,600千円）	248,139千円（32.1%、従来経費774,000千円）	6,878千円（3.9%、従来経費174,785千円）	22,036千円（6.1%、従来経費364,000千円）	334,906千円（25.3%、従来経費1,325,000千円）
次期事業	新プロセスに移行	新プロセスに移行	新プロセスに移行	新プロセスに移行	新プロセスに移行

次期口号公園運営維持管理業務の主な改善事項

項目	課題	改善の方向性
業務実施期間の改善	市場化テストの際のパブリックコメントにおいて、現在の3箇年の業務実施期間の延伸に係る意見が寄せられている	業務実施期間を現在の3箇年から4箇年に延長する
	業務実施期間が4月からのため、新規受託事業者が多客期(4~5月のGW等)に、十分な経験の蓄積がないまま対応せざるを得ない状況がある	次期業務の終了時期を1月末まで、次々期業務の開始を2月からとする
業務の引継ぎ事項の充実	受託事業者の交代において、前受託事業者から次期受託事業者への引継ぎが円滑に行われず混乱が生じた状況がある	事業者間の引継ぎについては、発注者により引継ぎ事項を明確化するなど、さらに充実する
業務評価の導入	運営維持管理業務に係る業務評価を行うことにより、業務の包括的な質の確保及び業務の確実な履行を促す必要がある	次期業務から業務評価を導入し、その結果を次々期業務の入札時における評価に反映させる
業務内容	業務毎に業務責任者を配置することを定めているが、業務責任者の配置に関する負担を軽減してほしいとの意見が寄せられている	「本業務全体の計画立案及びマネジメント業務」と「企画運営管理業務」について、利用者数を勘案し、武蔵・飛鳥・吉野ヶ里の3公園においては、「本業務全体のマネジメント及び企画立案業務」に統合する (参考:H24年度公園利用者数) 武蔵 約84万人 昭和 約368万人 飛鳥 約78万人 吉野ヶ里 約69万人 沖縄 約590万人